



現場から（最近のニュースから）

孤独を感じるのは



夏休みには、しばらく会っていなかった親戚や故郷の友だちに会う機会もあり、いつもと違った楽しい時を過ごすこともできます。そのような楽しい時を過ごしたあと、ひとりでいつもの生活に戻るとき、孤独を感じることはないでしょうか。人といっしょにいても、なんとなく孤独を感じてしまうこともあるかもしれません。孤独を感じるのがいやで、なにか気を紛らわせることを探したりするのも良いのですが、そうではなく「孤独」について一度、見てみましょう。

「人が孤独感を抱くのは、決して『孤独になったから』とか、『一人になったから』という外的要因からだけではありません。それを生じさせる要因がほかにもあるのです。ということは、その要因に対して、あらかじめ対策をしておけば、孤独感なんて覚えなくてすむ人生を送れるということです。」と書いてある記事がありました。そのように書いてある理由として、世界には、たった一人で生きている人が多いにもかかわらず、あまり「孤独」というものが問題にならない社会（国）が存在するからだということです。フィンランドやノルウェーでは、家のまわりになにもなく、クリスマスや誕生日などのイベント以外には人と会わないでいる人が多いそうです。その人々は、「自分は孤独という感覚がわからない」と言われるそうです。生まれたときからずっと「人に会わないことが当然であり、自然とともに生きることが幸せなこと」だから、孤独な環境にいることを淋しく感じないということです。それゆえ、記事では、孤独感は、結局、「暑い」とか「寒い」という感覚と同じで、育った環境や周りの人との関係、そして普段どんな情報に接しているか、などによって感じ方は大きく変わってくると言われます。ですから、普段の考え方や生活習慣を変えることによって、いくらでも「孤独感」はコントロールすることが可能だということです。

人間は、基本的には群れで生活し、進化してきた社会的動物なので、孤立した個体よりは、仲間と一緒にいる個体のほうが安全で、当然、生存率は高かったでしょうし、そもそも集団から離れていれば、子孫を増やすことができなかつたから、ひとりが好きな個体はだんだん減ったのだろつとされています。しかし、昔のようにひとりでいて危険だとか、子孫を増やす問題とか、動物的な理由が不要になって、時代も環境も変わったのですから、人間も、むしろ孤独な環境を楽しめるように変化し、進化していくほうがいいと思うということです。そして、記事では、孤独によってかえって才能を発揮した人の話を書いてありました。最後に「孤独だからこそできること」「孤独でなければ究められないこと」を見つけて孤独を楽しむ練習をしようとなりました。（8月12日 PRESIDENT Online <一年を通して人に会うのは数えるほど…それでもフィンランド人が「孤独」を全く感じない驚きの理由>より）

外的要因ではなく、孤独感を生じさせる原因があると言われてはいますが、いったいそれはなんでしょうか。人はなぜ、ふと孤独を感じるのかについて、多くの人が気づいていない事実があります。孤独を練習したり、孤独だからできることを考えても、どうしようもなく押し寄せる孤独感は、だれにもあります。たとえ孤独の状況に慣れていても、孤独と表現しないだけで、なんとなく押し寄せるむなしさは、あるはずでつ。それは、なぜなのか、また、解決法はあるのか、そのことについて、お分かちしたいのです。



救いの道

だれでも幸せになって、うまくいきたいのに、なぜ人生がこんなにも苦しくてつらいのでしょうか。

予期せぬ事故にあい、やることなすこと、すべてうまくいかず、会社ではやりがいどころか、仕事と人に疲れるばかりです。学校は、もはやいじめの天国になりつつあります。家庭内は冷たい風が吹き、一つ屋根の下でばらばらになり、実際に崩壊しているところも少なくありません。そのうち体は病気になるし、心も病んでしまい、眠れない夜が続きます。お酒や薬に頼り、ギャンブルや快樂に走ってみても答えはありません。わらにもすがる思いで占いをし、おふだやお守りをつけてみますが、解けそうにもなく、どんどんひどくなるだけです。

ときには、表では他人がうらやむほどの成功をおさめたのに、裏は穴が開いてもれていくし、隠れた問題でなげき、ため息をつきながら人生のむなしさを感じています。胸にはぼっかりと穴が開いて、埋められません。とても憂うつになって、時々、自殺の衝動にかられます。幻聴や幻覚に悩まされるときもあります。

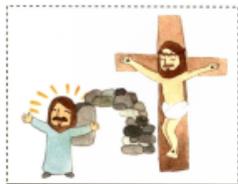
なぜこうなったのでしょうか。



それは、人が神様を離れているからです。魚が水を離れ、木は土から根を放り出すと枯れて苦しみ死んでいきます。人は神様に会って神様とともにいるべきたましいを持つ存在です(創世記1:27)。ですから、神様と出会う時、すべての問題が解決され、新しい人生が始まります。しかし、人は罪を犯して神様を離れてしまい、二度と神様に会うことができなくなりました。そのときから、目には見えない暗やみの力が、人を運命の力に閉じ込めて、苦しめて滅ぼしているのです。それで、どんなに暴れても抜け出すことができません。どんどん疲れはてて倒れるだけなのです。



神様は苦しみの中にいる人を愛し、この運命の泥沼から抜け出して、神様に会うことができる道を開いてくださいました。その道がイエス・キリストです。イエス・キリストが罪人の私たちの身代わりとなって、十字架を背負い、すべての罪を赦してください(ローマ5:8)、私たちを苦しめていた暗やみと呪いの勢力を完全に打ち砕いて勝利なさいました(1ヨハネ3:8)。そして言われます。「わたしは道であり真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれ一人として神に会うことはできません」(ヨハネ14:6)イエス・キリストは神様に会う道となりました。「疲れて重荷を負っている人はわたしのところへ来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます」(マタイ11:28)と私たちを招いておられます。



もうこれ以上、苦しみの人生にとどまっている理由はありません。道であるイエス・キリストを信じることで、神様に会うことができます。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきに会うことがなく、死からのいのちに移っているのです」「この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった」だれでもイエス・キリストを救い主として信じ、心に迎え入れれば救われます。下の「受け入れのお祈り」を通してイエス・キリストを心に迎えることができます。

「愛の神様、神様の驚くべき愛と、救いの計画を感謝します。今、私は罪人であることを認めて、悔い改めます。私の心の扉を開いて、今、イエス・キリストを私の救い主、私の神様として受け入れます。私の罪を赦してください、私を救ってください。感謝いたします。これからは、神様のみこころに従って生きる者にしてください。イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン」

相談のある方は、いつでも連絡ください